

令和4年度 自己評価書

学校名	和歌山市立三田小学校
校長氏名	桑木 義典
作成日	令和5年3月10日

1 教育目標

主体的・創造的な子どもを育てる。

2 本年度の取組についての評価

	確かな学力の向上	豊かな心の育成	健やかな体の育成	地域とともにある学校
指標	・県学習到達度調査で基本問題の正答数が県平均を上回る。 ・毎日の勉強が分かる。 (児童アンケート 90%)	・学校が楽しいと感じる。 (児童アンケート 95%) ・「みんなの道德」等の活用100% ・いじめの解消率 100%	・朝ごはんを食べた。 (児童 100%) ・積極的に運動を行うよう計画し、実践した。(教師 90%) ・避難訓練において、一次避難が避難開始より4分以内に完了する。	・学校の様子がよく伝わった。 (保護者アンケート 80%) ・ゲストティーチャーを招く等、地域の人材や文化等を学習に取り入れることができた。 (教師 90%)
重点目標〔P〕	◎基礎・基本の確かな定着 ◎子供主体の授業の推進 ◎家庭学習の定着 ◎読書活動の推進	◎道德・人権教育の充実 ◎いじめの未然防止、早期発見 ◎社会性・協調性の育成 ◎積極的に挨拶ができる子に	◎体力向上の推進 ◎基本的生活習慣の確立 ◎危機回避能力の育成	◎家庭・地域との連携充実 ◎保幼小の接続、中学校区における学校間連携の推進 ◎地域の資源活用の推進
取組の状況〔D〕	○朝学では「読み聞かせ、読書、視写、漢字、フリートーク」など各学年・学級の実態にあわせて行った。基礎学では算数の計算等の復習を行い、基礎、基本の定着をはかることに取り組んだ。また、4年生以上では応用力をつける問題についても取り入れた。 ○子供たちに表現力をつけるために、授業では「伝え合い」を取り入れ、自分の考えが書け、それが発表等の表現につながるようにと取り組んできた。 ○昨年度の学習到達度調査結果から見えてきた課題の克服に積極的に取り組んだ。	○11月には人権感覚を磨く授業を中心とした人権学習を全学年で行った。 ○地域の方々やゲストティーチャーなど、多くの人と出会うような取組を学習に取り入れていくように心がけた。登下校時には、見守り隊の方々にも積極的に子供たちに話しかけていただいた。 ○校庭には委員会活動を中心に花を絶やさないようにした。また、各学年で野菜作りも行い調理実習を行うなど学習園を計画的に使用した。 ○挨拶の重要性を折に触れて伝え、教職員が率先して挨拶することで、挨拶の輪が広がってきた。	OSANTA50・70(生活調べ)を年間3回、それぞれ続けて1週間行い、子供たちが自分の生活を見つめ直す機会を設けた。また、その結果を保護者の方にも見ていただきコメントをいただくようにした。 ○年間3回の避難訓練(地震と津波、不審者対応、火災)を行ったが、津波を想定した訓練では全児童による4階への避難訓練を行った。一斉下校訓練については3回行った。 ○交通安全協会や地域の方々を招き、例年行っている交通安全教室を実施し、正しい歩行や自転車の運転を教えていただいた。	○5年生が地域の方の田をお借りして稲作を行った。地域の方々の協力を得て、もみまき、田植え、稲刈り、脱穀、収穫したもち米で餅つきを行った。しめ縄作りは新型コロナウィルス感染症拡大防止のため行うことができなかった。 ○学校便りを毎月発行し、連絡所にも置いたり、地区回覧板に掲載していただいたりして、地域の方々にもお知らせした。 ○学校ホームページを活用して、学校の取組等を積極的に(毎日複数記事を投稿)発信した。
取組の成果と課題〔C〕	○県学習到達度調査県平均との差は次のとおり 4年生 国語±0P,算数-3.9P 5年生 国語-4.0P,算数-1.2P,理科-2.6P ○全国学力・学習状況調査全国平均正答率との差は次のとおり 6年生 国語-2.6P,算数-3.2P,理科-3.3P ○朝学の「読書、視写、漢字」は子供たちに文字や文章に慣れさせることができ、静かに学習に入ることでもできた。基礎学タイムは、発展問題をしたり、思いを綴ったりと、子供たちの実情に応じて、取り組むことができた。	○コロナ禍の中での授業参観は、授業参観週間や授業参観月間として自由に参観できるようにし、密を避けるようにした。都合の良いときに参観できるため、非常に多くの保護者が参観してくださった。 ○1年生と地域の高齢の方々との交流は、コロナ禍の中での実施ができなかった。関係を絶やさぬよう、終息後は実施していきたいと考えている。 ○4年生の「わうクラス」は、犬を通して命の大切さを学習することができた。 ○コロナの影響がなくなれば多くの人や生き物に触れて学ぶ取組を深めていきたい。	○スポーツテスト(主に50m走、20mシャトルラン、立ち幅跳び)の結果から、全国平均値より劣っている運動能力(脚力)を高めるために、体育の授業のなかで意識して取り組んできた。しかし、すぐに改善するということではないため、継続して取り組んでいかなければならないと考えている。 OSANTA70については、ほとんどの保護者がコメントを書いて返してくれているが、返ってこない家庭もあり、その家庭の子供の生活習慣が大変気になる。子供から家庭での状況についての聞き取りを徹底していきたい。 ○基本的生活習慣「早寝・早起き・朝ごはん」を確立できるよう積極的に働きかけていきたい。	○コロナ禍での子どもまつりや餅つき大会等のPTA行事の実施は、感染リスクが高いため、非常に残念ではあったが断念した。 ○5年生の稲作体験学習は地域の方々との協力が不可欠であった。今後も地域の方々に学校にかかわっていただけるよう協力をお願いしていきたい。 ○高学年は、総合的な学習の時間において、地域の方々の力を借りながら、地域の防災やSDGsについて学習を進めることができた。 ○小中の連携については、他校へ外出向いの授業交流は困難であり実施することはできず、交流する機会は持てなかった。今後、コロナ禍での小中連携のあり方を探っていく必要がある。
指標結果	・県学習到達度調査で基本的な問題の正答数が県平均を上回った。 ・毎日の勉強が分かる。 (児童アンケート 82.9%)	・学校が楽しいと感じる。 (児童アンケート 94.8%) ・「みんなの道德」等の活用100% ・いじめの解消率 100%	・朝ごはんを食べた。(児童 97.0%) ・積極的に運動を行うよう計画し実践した。 ・避難訓練において、一次避難が避難開始より4分以内に完了した。	・学校の様子がよく伝わった。 (保護者アンケート 90.0%) ・ゲストティーチャーを招く等、地域の人材や文化等を学習に取り入れることができた。 (教師 95%)
改善方法〔A〕	○基礎的、基本的な知識技能の習得は重要なため、今後とも工夫改善を加えて継続して取り組んでいく。また、子供一人一人の実情を把握し、内容や問題量、時間配分などについても工夫していくことが大切であると考えている。 ○実態から、子供一人一人に言語力・表現力が身につくよう、さらに教職員が一丸となって現職教育での取り組み方向や内容を探るとともに、外部講師を招き、研修を深めていきたい。 ○子供たちの学びを深めるため、対話して解決する場面を多く取り入れていきたい。	○自他共に大切にする人権学習に関する重要性とその取組内容について、保護者に伝え続けていくことが大切である。 ○人との出会いが心の成長に与える影響が大きく、学習効果を高めることより、授業のなかに、子供たちの心に響く人との出会い(ゲストティーチャー招聘)を今後も全学年で行っていきたい。 ○挨拶については、全教職員で範を示していくとともに、挨拶の重要性について子供たちに絶えず話し、あいさつの輪をどんどん広げていきたいと考えている。	○津波に備えた避難訓練を行っているが、想定をはるかにしのぐ場合に備えて、決めている二次避難所への避難の訓練も実施したいと考えている。 ○体力をつけるもとなる基本的生活習慣の定着について、保護者へのさらなる啓発に取り組んでいく。特に、「早寝」「朝ごはん」について強く啓発していかなければならない。 ○子供の体力をさらに向上していくために系統立てて実施している体育の指導計画を実施に即して計画を見直し、さらなる充実に取り組んでいく。	○要望があれば協力していただける地域の方々であるため、○○名人(野菜作りや裁縫など)として学校に来ていただき、ゲストティーチャーとして授業の中でさらに関わっていただける機会を設けていきたい。 ○今後も地域の方々の方をお借りしながら、防災・減災学習、環境学習等に積極的に取り組んでいきたい。 ○保護者や地域の方々に、学校の様子や子供たちの活動の様子など、機会をとりえてさらなる情報発信を行っていきたい。

3 その他の課題

○授業参観週間・月間には多くの保護者が来てくださるが、その期間中に設定している学級懇談会は、参加していただける方が少ないのが現状である。特定の日を参観日としなかったためではあるが、魅力ある懇談会のあり方、持ち方を検討していく必要がある。
○保護者にスマホの利用に特化した情報モラル研修を行う必要性を痛感している。来年度設定していくべきだと考えている。